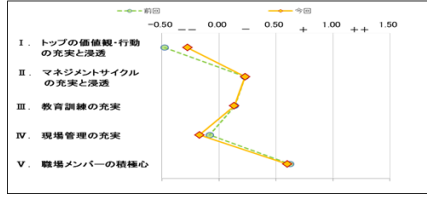
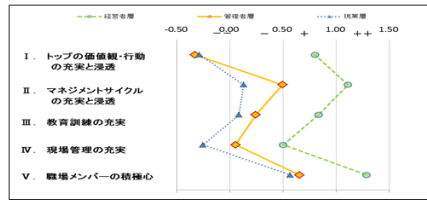
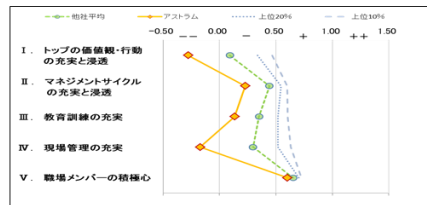



業種	鉄道・軌道（新交通）
取組み分野	安全方針
テーマ	「安全風土・安全文化のアンケート」結果を活用した安全文化の醸成
取組みの狙い	「安全風土・安全文化のアンケート」により課題を見出し、改善に繋げるための新たな取組みに反映させることにより、一層の安全文化の醸成に努める。
具体的内容	<p>広島高速交通では、社内の安全に関する認識や行動の度合い、階層間・部門間のギャップなどを数値化し、自社の安全に関する取組みを社員がどのように認識し、課題は何かなどについて「目に見える形」で把握することが重要であると考え、平成24年度に国土交通政策研究所の「安全に関するアンケート」を実施した。</p> <p>「経営者の姿勢や理念等が不明確で社員一人ひとりまで十分に伝わっていない」また「経営者の現場重視の行動や姿勢が見られない」など、現場は厳しい目で見ていることが確認されたことから、経営者層の方針、意識及び行動をきめ細かく伝えるとともに、現場からの声を十分に聞きながら、全社員一丸となって進める必要があることから、以下の取組みを新たに実施した。</p> <p>① <u>社長懇談会の開催</u></p> <p>社内のコミュニケーションを確保するため、現場係員が生声を直接伝える場として、また、経営トップが安全に対する考えを直接伝える場として、平成26年1月から4月の間に社長懇談会（延べ19回、社員116名参加）を実施した。</p> <p>常勤役員とセクション（工務係、車両係など）毎に、5～10数人のグループに分け、グループ討議方式で思いをぶつけ合う形をとった。</p> <p>現場係員からは、輸送の安全の確保や安全衛生などに関する多くの意見が出され、経営トップは現場の声を安全対策につなげるなど、その効果を発揮している。</p> <p>② <u>社内情報誌の定期発行</u></p> <p>平成24年7月から、社員へ安全に関する情報を提供するためのツー</p>



	<p>ルとして、「運輸安全マネジメント情報誌」を安全推進会議が編集・発行し、全社員への配布を開始した。</p> <p>社長の挨拶（提言）や安全重点施策の策定、安全に関するアンケート結果報告などのタイムリーな情報を毎月提供している。</p> <p>また、平成26年4月からはタイトルを「アストラムラインNEWS」に改め、社内に愛され親しまれる社内誌を目指して安全に関する情報に加えて社員紹介や投稿を加えるなど、話題性のある紙面構成としてバージョンアップを図っており、社内の情報共有のツールとして、必要不可欠なものとなっている。</p> <p>上記①及び②の効果を検証するため、平成27年9月に再度「安全風土・安全文化のアンケート」を実施した。</p> <p>アンケート結果では、前回のアンケート結果とほぼ同じ傾向が表れ、厳しい結果となったが、一部に改善が見られる部門等もあることから、その取組み等についてヒヤリング調査を行い、状況を把握するとともに、次年度の取組に反映させる仕組みとしている。</p>	 <p>アストラムラインNEWS 2016.1 (第22号)</p> <p>新駅開業効果、全線に さて、開業 22 年目に入った昨年を振り返って見ますと、会社にとって大変大きな転機となる年であったように思います。</p> <p>それは、3月に当社の開業以来の懸案、課題であった JR 山陽本線との交差部への新駅「新白島」の設置が、ようやく実現したことです。3月の開業以来、新駅の乗降者は一日当たり約9千人となっており、JRとの接続が改善されたことを受けて、全線の利用者もこれまで1日6万2千人を超えるまでに伸びています。改めて、公共交通はネットワークが大切であることを認識した次第です。</p> <p>年度の途中でこの通年で数字を見る必要はありますが、これまでのところおむね順調に推移しているというよいと思えます。</p> <p>平成 28 年 社長年頭挨拶 代表取締役社長 廣本 康男 みなさん、新年あけましておめでとうございます。年頭に当たり、一言ご挨拶を申し上げます。</p> <p>その前に、昨年末からお正月にかけて、通常通りに列車に乗り降りしたり、本社や駅での勤務についていた社員の方には、大変ご苦労様でした。改めて御礼申し上げます。</p> <p>振り返ってみますと、新駅開業までの最後の一年は大変忙しい工事年となり、JRとの同時開業が本来にできるのだろうか、一時は心配した時もありました。しかしながら何と云っても、担当した皆さん、協力会社のみなさんの努力と御礼のおかげで、無事開業にこぎつけることができました。</p> <p>私自身、当日朝、始発電車が長蛇の列を出た時の興奮を受けたときの嬉しさは、今も忘れられません。</p>
<p>取組みの効果</p>	<p>安全文化の醸成及び運輸安全マネジメントの取組みを進めるにあたって、社員の安全意識等を定量的に把握（見える化）することが重要との認識から、以下の取組みによりCAPDCAサイクルを機能させ、より一層の安全文化の醸成等に繋げる仕組みを構築した。</p> <p>① アンケート調査（C）の実施 ② アンケート結果を踏まえ見直し・改善（A） ③ 新たな取組を計画（P）・実施（D） ④ 取組の効果を把握するため再度アンケート（C）及び見直し・改善（A）</p>	
<p>事業者名</p>	<p>広島高速交通(株)</p>	